

広島市スポーツ振興計画見直し案（たたき台）

推進施策等	委員の意見(要旨) ※同趣旨の意見は割愛	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等
第1章 計画の策定に当たって 2 計画の位置付け		(1) この計画は、 スポーツ振興法(昭和36年法律第141号) に基づくスポーツ基本法(平成23年法律第78条)に基づく国の「スポーツ基本計画」を参照して策定した広島市のスポーツ振興に関する計画です。	● スポーツ基本法附則第3条の経過措置の規定により、改正前のスポーツ振興法の規定に基づき策定した本計画は、スポーツ基本法附則第3条の経過措置の規定により、改正後のスポーツ基本法の規定に基づき策定した計画とみなされる。
3 計画期間		目標年度は平成32年度(2020年度)とし、計画期間は平成23年度(2011年度)から平成32年度(2020年度)までの10年間とします。 なお、中間年には進捗状況を踏まえ、見直しを行い、必要に応じて計画を変更します。	● 現在、本市の公用文において、西暦表記は使用しないよう運用されていることから、西暦表記を削除する。 また、中間年に見直しを行う旨の文言は、この度の見直しをすることから、削除する。
4 計画の見直し		※ 議事資料1の内容を盛り込む。	● 計画見直し検討部会の審議結果を踏まえ、計画の見直しを行う理由の説明について記載する。
第4章 推進施策 2 施策の内容 (1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興	【数値目標1の見直し】 ◎ 「スポーツ王国広島」を目指しており、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向けて、70%とすべきである。 ◎ 数値目標を5%上げるのであれば、根拠が必要である。 ◎ 現行のままでもよいが、世代別に見ると、U字カーブとなっており、特に30～40歳代の数値が低いので、70%に上げるのであれば、年代別の目標を設定すべきである。 ◎ 若い世代の間、スポーツに親しむ経験や動機付けをしておき、仕事や子育て等で一旦スポーツから離れたとしても、いつでもスポーツに復帰できる環境づくりが必要である。 ◎ 健康寿命という視点からも考える必要がある。	2 基本方針及び目標年度の数値目標 (1) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興 数値目標 週1回以上スポーツをする市民(20歳以上)の割合を 65 70%以上にします。	● 次のとおり、新たな取組を実施することにより、目標年度に達成できると考える。 (1) 健康寿命の延伸を目的として、子どもから高齢者までライフステージに応じた身体的な運動を推進していくことにより、スポーツ・レクリエーションに親しむことを習慣づけることに取り組む。 例えば、ラジオ体操を通年で実施できる環境づくり、自転車利用の促進を図る取組、エスキーツ等のニュースポーツ等の普及などを実施する。 (2) 本計画の目標年度に、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、市民のスポーツに関する意識も高まることから、今後、こうした気運を盛り上げる取組、同大会終了後においても継続してスポーツに親しむ市民が増加する取組、及びジュニア選手が自らの競技力を高めようとする意欲を高めることにつながる取組(世界のトップのプレーを観る機会等の提供等)などを実施すること。
ア 市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供と環境づくり	【総合型地域スポーツクラブ等】 ◎ 総合型地域スポーツクラブが地域のコミュニティの核として発展するために、生涯スポーツの地域サークルや、高齢者施設の体カづくり等と連携した取組を推進し、競技スポーツとのバランスを図る。 ◎ 総合型地域スポーツクラブの原型は、大学のサークルのようなものであると思う。大学のサークルに一般市民も参加できるような機会があればよい。 【スポーツ施設の利用促進】 ◎ 毎年1回「スポーツセンター祭り」を開催し、町内会、社会福祉協議会及び民生委員と連携を密にし、福祉、健康づくりの取組をスポーツセンターで実施してもらい、日頃スポーツに縁のない生活をしている市民に施設に来てもらい、スポーツに触れる機会を作る。また、東区スポーツセンターをランニングステーションに指定し、シャワー室及び更衣室を設け、市民ランナーに利用していただく。 ◎ 託児所を設置するのは難しいが、交代で面倒を見てくれる人がいると、スポーツに参加しやすい。 ◎ スポーツ関連施設において、敷地内及びその周辺地域を全面禁煙とし、スポーツ施設内で販売する飲食料を健康的なものに制限する。 【スポーツ・レクリエーションイベントの実施】 ◎ 特徴的なスポーツを区ごとに広める。スポンサーをとってきて、ポイント制のようなものを実施する。こうしたイベント等を実施するに当たり、区役所等の体制強化を行う。	(ア) 総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力 ○ * 総合型地域スポーツクラブの設立・運営に当たり、ホームページの開設や活動場所・指導者の確保などの支援について検討し、 実行 を行います。 (ウ) スポーツ施設の利用促進 ○ スポーツセンターについて、ロビー等の空きスペースの有効活用や地域団体等と連携した託児サービスなどにより、子育て世代の親が気軽にスポーツを楽しむことのできる環境を整えるとともに、スポーツ活動のみならず、地域の町内会や社会福祉協議会、民生委員・児童委員等と連携を密にし、地域コミュニケーションの場としての機能も有する地域スポーツの拠点施設を目指します。	● 総合型地域スポーツクラブに係るホームページは既に作成済みであり、また、活動場所の確保等に係る支援を行っている。 ● 委員の意見は、「(ア) 総合型地域スポーツクラブの設立支援及び運営協力」の項目に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● スポーツセンターが、地域コミュニケーションの場としての機能を有するための方法について、具体的に記載することとする。 なお、「託児サービス」についての意見は、具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● スポーツ施設において、敷地内全面禁煙を実施することが望ましいが、広島市の方針(施設内全面禁煙)以上の基準を設けるに至っていない。 また、スポーツ施設内の自動販売機や売店は、指定管理者の財源となっていることから、指摘されたような制限を設け難い。 ● 委員の意見は、「(ウ) 身近にある海や川、山を利用したアウトドアのスポーツ・レクリエーションイベントの実施」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。
イ スポーツレクリエーションに親しむことを習慣づけるための健康づくり・体カづくりに向けたスポーツの振興	【子どもから高齢者までの健康づくり・体カづくりのための事業の実施】 ◎ ライフステージに応じたスポーツ活動を推進する。スポーツを中・高齢者や障害者の健康づくりと生きがいづくりのキーワードとして引き出していく。高齢者施設の介護教室等を一種のスポーツとの見方をすると、地域で恩恵を受ける人が広がる。 ◎ シニアデーを設け、利用料無料でシニア向けスポーツ教室を開催し、スポーツに親しむきっかけづくりを進める。 ◎ スポーツから距離を置いている人たちに積極的に働き掛けながら、スポーツをする人を増やしていく施策に切り替える必要があり、ニューエルダーを中心に、学区単位で元氣クラブを設置する。	イ スポーツレクリエーションに親しむことを習慣づけるための健康づくり・体カづくりに向けたスポーツの振興 (ア) 子どもから高齢者までのライフステージに応じた 健康づくり・体カづくりによる健康寿命の延伸のための事業の実施	● 数値目標1の見直しに係る意見を反映させた。 なお、「ライフステージに応じた」という文言は、スポーツ基本計画の基本方針及び広島県スポーツ推進計画の対応方針に記載されている。 委員の意見は、ライフステージに応じた事業展開に対する提案として承ることとする。 ● 委員の意見は、「○ 健康ウォーキングや健康体操等の指導を行うアクティブシニア健康増進リーダーを養成するとともに、老人クラブや社会福祉協議会等と連携・協力し、高齢者の健康づくり・体カづくりのための事業を実施します。」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。

推進施策等	委員の意見(要旨) ※同趣旨の意見は割愛	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等
	<p>【日常的にスポーツに取り組む動機付け】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 若者のスポーツをしない理由は、「一緒にスポーツをする人がいない」、「時間がない」であるが、地域の企業や団体に協力をいただき、行政が、職場のスポーツ推進担当者のための研修会を開催し、職場を中心に昼活でスポーツをしようというキャンペーンを行う必要がある。 ◎ 職場環境の中でのスポーツへの取組(通勤、昼休み等の利用)ができれば、勤務状態におけるプラスαができる。 ◎ 30～40歳代の専業主婦へのアプローチとして、自転車で、今日はスポーツ感覚で一本向こう筋のスーパーに行ってみようか、そうした運動量を計算できたりすればよい。さらに、いつもより安い買い物があればベターである。 ◎ 距離を入力するとどこまで行ったというような、遊び感覚で、ウォーキングなどができるアプリがあれば面白い。 ◎ 広島市は、自転車での移動が文化としてあり、生活の足として定着している。これを活かす施策を展開する。健康寿命と関連させたりし、ポイント制のようなものはできないか。 ◎ 出て行かない人、掘り起こされていない人たちと、町内会等がどう絡んでいくかが重要であり、スポーツだけが健康づくりではない。こうしたことを計画に取り入れる。ラジオ体操の見直し、普及は面白い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民が日常的にスポーツに取り組む動機付けとなるよう、地域の町内会や企業等と連携し、ウォーキングや、ジョギング等の状況に応じた顕彰制度を設けます及びラジオ体操等の促進を図るとともに、自転車利用の促進を図る取組を実施します。 ○ 健康づくり・体力づくりに関する市民への情報提供などについて、民間スポーツクラブとの連携を検討します促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 以下の3点をキーワードとして採用した。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 普段運動をしない人に対するアプローチ方法 (2) 誰でもできる運動(ラジオ体操等)の普及を行うことが重要 (3) 自転車を利用する者の増加を活かした取組 ● 各委員の具体的な意見は、事業展開に対する提案として承ることとする。 ● 平成23年度、顕彰制度に係る事業展開を行わないこととしたため、削除する。 ● 平成26年度、民間スポーツクラブと連携し、同クラブの有資格指導者にスポーツセンターで実施する教室の講師を依頼する取組を開始し、今後、同取組を促進していく。
<p>ウ 障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進</p>	<p>【障害者・健常者が共に楽しむことのできる行事の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ひろしま国際平和マラソンは、競技用でなく普通の車椅子でも参加可能であるが、参加者がなかなか増えない。コース取りがきついか、判断が難しい。 ◎ PRしていく必要がある。お父さんと一緒に手をつないで走る感じ、雰囲気づくりが必要。 ◎ 第50回織田記念陸上大会で、障害者の種目やレースを実施しようと働き掛けている。市民の皆さんに見てもらう機会が少ないので、そうしたスポーツ大会で、サブイベントになるかもしれないが実施する。 <p>【障害者スポーツの普及・振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 第50回織田記念陸上大会で、障害者の種目やレースを実施しようと働き掛けている。市民の皆さんに見てもらう機会が少ないので、そうしたスポーツ大会で、サブイベントになるかもしれないが実施する。 ◎ 障害者が、地域で活動していける環境づくりが進めばよい。そうした事業を普及させていく必要がある。 ◎ いわゆる出前講座のように、障害者の自宅近くで実施し、まずは自宅から出てもらい、その次にスポーツセンターに来てもらうという取組は重要であり、計画に入れることとする。 ◎ 障害者スポーツ指導員の増加と、健常者と共にスポーツができる環境整備の両面を進めていかないといけない。 <ul style="list-style-type: none"> ◎ スポーツ弱者に対する振興策と環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ア 競技力の向上(全国障害者スポーツ大会への広島市からの参加者の増加) 障害者スポーツ「競技力の向上」という文言が入った方がよい。 イ 障害者スポーツの普及(指導者の増加、組織の法人化) ウ 開発途上国の障害者スポーツの支援 エ 学校教育や総合型地域スポーツクラブとの連携による理解促進 オ スポーツを楽しみたいという意欲がある性的少数者に対して、施設(更衣室など)の整備すること、また、競技参加資格を整備すること。 	<p>(ア) 障害者が健常者が共に楽しむことのできる行事の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市心身障害者福祉センターが実施するスポーツ行事等の充実を図るとともに、ひろしま国際平和マラソンの車椅子種目を実施し、まずにおいて、より多くの障害者が参加できるよう、環境づくりや周知方法について検討します。 <p>(イ) 障害者がスポーツの普及・振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小・中学校や関係団体との連携により、障害者がスポーツの理解の促進や介助者の拡大、ボランティアの育成や指導者障害者スポーツ指導員の養成、障害者がスポーツの活動場所の拡大など障害者がスポーツに親しみやすい環境づくりについて検討し、まずを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ひろしま国際平和マラソンにおいて、既に、車椅子種目は実施しているため、参加者を増加させる方策等について検討する旨の文言に変更する。 ● 委員の意見は、「(ア) 障害者が健常者が共に楽しむことのできる行事の開催」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● 広島県が、「障害者スポーツ指導員養成者数を560人以上にする。」という成果目標を掲げているため、本市も明確に記載すべきと考える。 ● 以下の2点から、「検討します。」という消極的な文言から「行います。」という積極的な文言に変更する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員の意見のとおり、早急に障害者が地域で活動できる環境整備をする必要があること。また、各委員から、事業展開に係る具体的な提案を頂いていること。 (2) 東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向け、本市として、障害者スポーツを推進していく必要があること。 ● 委員の意見について、アは、本計画の「(3) 競技力の向上」に新たに追記することとする。また、イ(組織の法人化)については、取り組むべき課題として認識しているが、まずは競技団体の組織化を進めることが重要であると考えている。このことについて、「(3) 競技力の向上」に新たに追記することとする。 <ul style="list-style-type: none"> イ(指導者の増加)及びエは、本計画に既に記載がある。 ウについて、本市が単独で行うものではなく、国の施策と考える。 エについて、前段の施設整備に係る部分は今後の検討課題として承る。 なお、後段は、各競技ルールに関する問題であることから、本市において判断して整備するものではないが、競技団体への働き掛けを行うことは可能であると考えられる。
<p>エ 地域における子どものスポーツ活動の促進</p>	<p>【ラジオ体操の見直し・普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ラジオ体操を復活させる等、子どもがスポーツに馴染むきっかけが必要である。 ◎ そもそも子ども会がない。子ども会がなくなった後、自治会において通年でラジオ体操を実施することになった。夏休みは、小学1年生から80歳代までラジオ体操をしており、以前よりも参加人数が増加した。 ◎ 大人の世界ではラジオ体操が大変ブームである。ラジオ体操は、子ども会のものだと先入観を持っていた。 ◎ 子ども会がないから、ラジオ体操ができないと言えばそれで終わりだが、これからは発想の転換をしていかないといけない。教育委員会からラジオ体操をすべきだと言えば、先生もその気になるだろう。 	<p>(ア) * 地域スポーツ振興担当コーディネーター等による子ども会や児童館の事業等への支援</p> <p>(※一つ目の○の直後に以下の項目を追記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 町内会等地域の関係団体と連携し、ラジオ体操等の子どもが日常的に運動を行うことができる環境づくりに取り組むことにより、子どもがスポーツに親しみきっかけをつくることについて検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新たにラジオ体操の普及に係る項目を追記すること、また、支援を行う者は、地域スポーツ振興担当コーディネーターに限るものではないことから、表題に2か所「等」を追記する。 ● 委員の意見を総合的に勘案し、新たに「ラジオ体操の見直し、普及を行うことにより、子どもがスポーツに親しみきっかけづくりを行うこと」について、追記する。

推進施策等	委員の意見(要旨) ※同趣旨の意見は割愛	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等		
<p>オ 地域コミュニティの活性化や国際交流の推進に向けたスポーツの振興</p>	<p>【地域スポーツ振興担当コーディネーター等によるスポーツセンターを拠点とした地域コミュニティの活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 各区内で、スポーツ・レクリエーション祭を開催し、いつでもどこでもだれもが手軽に楽しむ市民スポーツの普及のキッカケにする。 ◎ 異世代等のスポーツ交流 <ul style="list-style-type: none"> ア シニア層と小学生との交流を学区単位で展開する。 イ 男女ペアで行うスポーツや家族単位で競えるもの等、多様なスポーツを楽しむ環境づくり。 ◎ 各区スポーツセンターの同コーディネーターは2名と少ない。5学区ごとに1名等が望ましい。 <p>【ニュースポーツの開発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ニュースポーツを作らませんかとアイデア募集を行い、〇区発というふうになれば面白い。 	<p>(イ) スポーツセンターの特色を生かした事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域スポーツ振興担当コーディネーターや体育指導委員スポーツ推進委員が中心となり、地域団体や公民館等と連携し、地域のニーズを掘り起こしながら、地域の特色となる事業をの検討し、ニュースポーツの開発・普及に向けた取組を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員の意見は、「(ア) * 地域スポーツ振興担当コーディネーター等によるスポーツセンターを拠点とした地域コミュニティの活性化」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● ニュースポーツの普及は、事務局の課題としても挙げており、委員の意見から、ニュースポーツの開発に関することと併せ、ニュースポーツの開発・普及に向けた取組に係る文言を追記する。 		
<p>カ スポーツ・レクリエーション活動を支える組織や人材の育成</p>	<p>【学区体育協会の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 学区体育協会の加入率が2%台と非常に低い、部員数を倍増するといった内容を入れられないか。このままではいけないと思うので、もう一歩踏み込めないか。 ◎ 学区体育協会は、参加者が固定している。これは、スポーツだけの問題ではなく、学区体育協会だけを活性化しても良い結論にならない。学区を越えて新しいスポーツがあれば、それを応援するものがあるのもいいと思う。 <p>【体育指導委員活動の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 広島市のスポーツ推進委員は、65歳定年のため、なり手がおらず欠員が生じている。 ◎ スポーツ推進委員の定年制を見直しても良いと思う。 ◎ スポーツ推進委員の新陳代謝がないのなら、70歳に見直してはどうか。 ◎ スポーツ推進委員が充足していないことが問題である。緊急避難的に人数を増やすために定年を延ばすのはよいが、併せて、5年、10年の間に若い世代に入ってきてもらう施策を考える流れになる。 ◎ トップスポーツや競技スポーツをした人の経験を活かせる仕組みを、行政も考えてもらいたい。 <p>【スポーツボランティアの登録・派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 元気な高齢者を増やすキーワードは、「スポーツ」と「仕事」である。 <ul style="list-style-type: none"> 1 館 1 ボランティア事業を立ち上げ、高齢者のスポーツコーチ登用やスポーツセンター利用者によるボランティアの組織化を図る。 	<p>(ア) 学区体育協会の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域スポーツの中心的団体である学区体育協会の事業に多くの市民が参加し、気軽にスポーツを楽しむことができるようが、地域で気軽に参加できる身近なスポーツクラブとなるよう、* 地域スポーツ振興担当コーディネーターや体育指導委員スポーツ推進委員が連携し、学区体育協会による組織のあり方や事業内容の検討を促進し、学区体育協会のクラブに加入したり、行事に参加したりする市民が増えるよう取組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区体育協会への加入者数が低い水準で留まっており、対策が必要なことが明白であるため、「学区体育協会のクラブ加入者数等を増加させる取組を行う」という趣旨の文言に変更する。 ● 委員の意見は、「(イ) 体育指導委員活動の活性化」に関する具体的な事業展開に対する提案として承ることとする。 なお、事務局としては、早急に、定年の見直しを行い、欠員状態の解消を図るとともに、若い世代の人材発掘や、アスリートのセカンドキャリアという視点も踏まえ、新たな人材の確保に係る取組を行う。 ● 委員の意見は、「(ウ) スポーツボランティアの登録・派遣」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 		
<p>キ スポーツ・レクリエーション活動の場の整備・充実</p>	<p>【身近な公園等におけるスポーツ設備の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 東区スポーツセンターの前の広場のバスケットゴール等、地域の中にスポーツをする道具がある公園は市内にほとんどない。市役所で管轄の違いを超えて、身近に運動やスポーツに親しむことができる環境を活用できるようにしていくことに積極的に取り組んでもらいたい。 ◎ 自転車をキーワードにし、スポーツバイクの環境整備(太田川河川敷等)をする。 ◎ 自転車や車椅子のレーサーが乗ることができ、競技やタイムトライアルができる多目的な場所があればよい。 ◎ 子育て世代である30代から40代がスポーツセンターに行きにくいので、気軽にできることを始めて、スポーツに親しむを持ってもらう取組が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ア ヨーロッパや中国では、公園に石の卓球台が置いてある。これが、マンションの遊び場等にあると、子育てしながら子どもたちが遊ぶ場としてスポーツに親しめる。 イ 東京都港区は、公園に防護ネットが張られており、そこで野球等が自由にできる。 ◎ 学校体育施設開放事業は、利用団体の固定化が進んで、新たな団体の参入が難しくなっている地域があるため、今後、高校や大学のスポーツ施設についても、クラブ活動に使用されていない時間帯を地域の団体等が利用できるよう、制度化を検討する必要がある。 	<p>(ア) スポーツ施設の整備・充実 (※ 一番目の〇の前に以下の項目を追記する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民にとって身近な公園等へのスポーツができる器具等の設置について検討します。 (イ) 未利用地等のスポーツ活動の場としての活用の検討 <ul style="list-style-type: none"> ○ 市民ニーズを踏まえ、市民が未利用地等をスポーツ活動の場として気軽に利用することができる方法について検討し、遊休地等を活用し、市民が身近に運動やスポーツができる運動広場等の環境の整備に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員の意見を総合的に勘案し、新たに、スポーツ設備等の整備について、追記することとする。 なお、都市公園法及び広島市公園条例、又は予算の都合等もあることから、「検討します。」という文言とした。 ● 新しく土地を整備することは財政上困難であるが、本市の未利用地等を活用して、市民が身近に運動やスポーツができる運動広場等の環境の整備に取り組んでいきたい。 ● 梶原委員の意見は、「(イ) 学校体育施設の開放」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 		
<p>(2) 学校における体育・スポーツの充実</p>	<p>【数値目標2の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 広島県の数値目標(体力合計点の全国1位を目指す)のように、体力の伸びが客観的に見える数値目標に変更する。 ◎ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」のデータを基に新たに数値目標を設定し直すこととする。 	<p>2 基本方針及び目標年度の数値目標</p> <p>(2) 学校におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興</p> <table border="1" data-bbox="1513 1869 2077 1974"> <tr> <td>数値目標</td> <td>新体カテストの結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を59.65%以上にします。</td> </tr> </table>	数値目標	新体カテストの結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を 59.65% 以上にします。	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行計画の目標数値は、種目数(8種目)を基準としており、種目数が少ないことから、自ずと各年度の結果にばらつきがでることとなる。他の基準で設定できないか検討を行ったが、指標として適当なものはなかった。 このため、若干のばらつきはあるものの現行計画の目標数値を踏襲し、広島市の平均値が全国の平均値を上回る種目数を、現在よりも1種目増やすことを新たな目標として、現在の50%から65%に引き上げることとする。
数値目標	新体カテストの結果において広島市の平均値が全国の値以上となる種目の割合を 59.65% 以上にします。				

推進施策等	委員の意見(要旨) ※同趣旨の意見は割愛	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等		
ア 子どもの体力向上等に向けた運動・スポーツ活動の促進	<p>【子どもの体力向上】</p> <p>◎ 我が国の子どものスポーツ活動の始期は、通常、小学校の体育の授業からとなっている。現在でも、Do スポーツ体験事業などにより、小学生にトップアスリートとのふれあいの機会を提供しているが、学校体育の授業そのものを充実・強化し、外部の専門家を活用し、適切な指導が入ることにより、優秀な選手へと成長していく子どもを発掘することができると思われる。</p> <p>【運動部活動の活性化】</p> <p>◎ 中学校にない運動部の新設等を求める声があっても、練習場所の調整、指導者及び顧問の不在を理由に校長が認めない場合が多いため、運動部の新設等を実現できるような配慮してほしい。</p> <p>また、沼田高校体育コースの強化対象競技の多くは結果を出せておらず、県内や市内の強豪校と競合している。他競技の方が効果的な強化・育成ができる。</p> <p>県と調整し、強化競技の交通整理をすることで、さらなるジュニア育成につながると思われる。</p>		<p>● 委員の意見は、「(ア) 子どもの体力向上に向けた取組」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。</p> <p>● 委員の意見は、「(イ) 運動部活動の活性化」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。</p>		
イ 学校体育施設の整備・充実					
(3) 競技力の向上	<p>【数値目標3の見直し】</p> <p>◎ ふるさと選手を含めたカウント方法に変更する。この場合、実績が約 60%なので、目標数値を 70%とする。ふるさと選手を含める方法に変更するのであれば、ふるさと選手をフォローする取組を考える必要がある。</p> <p>◎ ふるさと選手をカウントするのであれば、選手に対するサポート的なものが必要である。遠征費の助成がいいのか分からないが、県と調整をお願いしたい。</p>	<p>2 基本方針及び目標年度の数値目標</p> <p>(3) 地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興</p> <table border="1" data-bbox="1513 703 2083 798"> <tr> <td>数値目標</td> <td>国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手(ふるさと選手を含む)の割合を5970%以上にします。</td> </tr> </table>	数値目標	国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手(ふるさと選手を含む)の割合を 59 70%以上にします。	<p>● 委員からは、ふるさと選手に対するサポート体制が必要である旨意見を頂いているが、本市では、現在、一般の広島県代表選手に対する支援事業を実施しておらず、ふるさと選手だけに特化した事業を実施することは、非常に難しい。</p> <p>したがって、これまで以上にジュニア選手の競技力向上に対する事業を充実させて、将来、ふるさと選手として県代表になれる有能な広島市出身選手を数多く育成するというものをもって、目標数値にふるさと選手を加える理由としたい。</p>
数値目標	国民体育大会に出場する広島県選手に占める広島市選手(ふるさと選手を含む)の割合を 59 70%以上にします。				
ア ジュニア選手の育成・強化	<p>【ジュニア選手の強化】</p> <p>◎ ジュニア選手の育成・強化及び成長期のジュニア選手のサポートは、いずれも県との連携及び調整が重要であり、県と市が別々の競技力向上策を練るよりも、県市一体となった強化策の方が無駄はない。</p> <p>市は、県の助成対象以外に補助金を出す方が効果的であり、制度の検証が必要だ。</p> <p>◎ 実質的には、県も市もない。「県と市が一体となって」という文言を入れても良いと思う。</p> <p>◎ メディカルサポート事業の対象種目を増やすことにより、マイナーな競技においても国体の好成績に繋げることで、実質的な競技力向上に繋がることが期待できる。</p>	<p>(ア) ジュニア選手の強化練習・指導の充実</p> <p>○ 競技団体と学校運動部等が連携により多くの素質・能力のあるジュニア選手を発掘するし、早くから競技団体に繋いで育成する体制の構築に取り組みとともに、広島県と広島市が一体となって、強化合宿の開催や遠征等の競技力向上対策事業を実施します。</p> <p>○ より多くのジュニア選手が、将来、国民体育大会等の全国規模の大会で活躍することができるよう、競技団体、広島市中学校体育連盟、広島市小学生体育連盟、広島市スポーツ少年団等の関係団体と連携し、広島県と広島市が一体となって、小学生から高校生までの一貫した指導体制の構築に取り組みます。</p>	<p>● ジュニア選手の育成・強化及びサポートについて、競技団体等の意見を伺いながら、広島県と一体となって推進していくことを明確に記載する。</p> <p>委員の意見にもあるとおり、広島県と一体となった取組の推進を図ること、また、ふるさと選手に対するサポート体制の構築を行うことにより、成績の向上に努めていきたい。</p> <p>● 委員の意見は、「ジュニア選手指導者へのメディカルサポート事業」の運営に対する提案として承り、今後の事業展開に活かす。</p>		
イ 選手強化に向けたサポート体制の構築	<p>【ふるさと選手を含む国体選手への支援】</p> <p>◎ ふるさと選手を含めるとすれば、当該選手に対するサポート的なものが必要である。県との調整をお願いしたい。</p> <p>◎ 国体は企業チームの PR にならない。市から激励があれば、企業の予算付けの理由も立つ。スポーツ団体から企業チームに国体を頑張るようアクションを起こすためにも、意識付けとしてスポーツ団体のことも網羅すると良い。</p> <p>◎ 国体は、数値目標になっているので、出場選手を広報紙で写真付きで紹介できないか。サポート体制を強化するというのを、具体的には出せないとしても、積極的に検討していくということも計画に入れる必要がある。</p> <p>◎ 国体に出場する県選手に占める広島市選手の割合は伸びているが、肝心の国体での広島県の成績は年々低下しており、この目標がアウトカム指標となっていない。</p> <p>広島市選手の割合を増やすとともに、国体の成績向上に資する取組が必要である。</p> <p>【障害者スポーツの競技力向上】</p> <p>◎ スポーツ弱者に対する振興策と環境整備【再掲】</p> <p>ア 競技力の向上(全国障害者スポーツ大会への広島市からの参加者の増加) 障害者スポーツ「競技力の向上」という文言が入った方がよい。</p> <p>イ 障害者スポーツの普及(指導者の増加、組織の法人化)</p>	<p>イ 選手強化に向けたサポート体制の構築</p> <p>(ウ) 障がい者スポーツの競技力の向上</p> <p>○ 広島県と広島市が一体となって、競技団体等と連携し、素質・能力のある選手の発掘・育成を推進します。また、全国大会への選手の派遣等を通じて、障がい者スポーツの競技力向上を支援します。</p> <p>○ 障がい者スポーツ指導員の養成や競技団体の組織化などを進めることにより、障がい者スポーツの体制整備に取り組みます。</p>	<p>※ 数値目標3の根拠と同じ。</p> <p>● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることから、「障がい者のスポーツ・レクリエーション活動の促進」と併せて、障がい者スポーツの競技力の向上に向けた取組が必要であると考え、追記する。</p> <p>また、広島県スポーツ推進計画(基本方策3) 障がい者の競技スポーツにおけるアスリートの育成)において、「障がい者スポーツの競技力強化につながる取組の推進」や「競技団体の組織化などの体制整備」について記載があることから追記する。</p>		
(4) まちの活力創出に向けたスポーツの振興	<p>【数値目標4の見直し】</p> <p>◎ 平成 26 年度の実績が 39.8%であり、50%以上の目標設定は厳しいので、現況を踏まえ、据え置きとする。</p> <p>◎ カーブやサンプレッチェの盛り上がりやを考慮すると上げてよいと思うが、リピーターが多いと思われる。</p>		<p>● 平成26年度の実績を考慮すると、現在の数値目標の達成が厳しい状況となっていることから、引き続き、推進施策を充実させ、目標年度に達成できるよう取り組むこととし、数値目標は据え置きとする。</p>		

推進施策等	委員の意見(要旨) ※同趣旨の意見は割愛	計画見直し案(たたき台) ※見直す箇所のみ抜粋	見直しの根拠等
<p>ア 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機としたスポーツ振興に関する事業推進</p>	<p>【東京オリンピック開催に係る取組について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 事前合宿の誘致、スポーツと平和に関する国際会議の誘致、市民の気運の醸成は載せていきたい。 ◎ ジュニアにスポーツが好きになってもらえるよう、バスをチャーターして東京オリンピックに派遣し、生で見てくるといようなオリンピック後に続いていくような企画をどうするか。レガシーを広島市としてどう捉えるかを考える必要がある。 ◎ これから5年間で五輪代表級の選手を育成するのは非現実的である。現実的にはキャンプ誘致であり、交渉ルートのある単一競技に絞り込んだ方が現実性は高まる。出場権を得た場合との前提つきで早めの交渉をすべきである。また、東京五輪推進室長の平田竹男氏など、広島ゆかりの組織委関係者とのパイプ構築も不可欠となる。 ◎ 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けての広島市の関与について <ul style="list-style-type: none"> ア ジュニアの発掘・強化は、東京の次のオリンピックに出場する選手の養成につながるから意味がある。 イ 事前キャンプ・合宿の誘致をするため、各施設のオリンピック・パラリンピック仕様への改修、観客席・ロビー等共用部分の土足利用化への整備及び優遇措置等、他都市に負けない魅力的な条件設定をする必要がある。また、事前合宿の誘致を数か国又は数チーム確実に確保するということを盛り込む。 ウ 平和都市広島としての平和の祭典であるオリンピックについて、聖火の採火を平和公園で行う。 エ 観光部局と連携し、海外から来る選手・観客の広島への誘導に係る計画を早急に策定する必要がある。 オ オリンピック・パラリンピック開催の成果として、ゴールボール、ボッチャ、シッティングバレーボール及び視覚障害者マラソン等のパラリンピック競技種目の普及・定着の還元を行う。 ◎ 2020年に中・高校生になる今の小学生へ広報活動をし、キッズボランティアの育成をする。 	<p>(ア) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会出場国・地域の事前合宿の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会や競技団体等と連携し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたナショナルチームの事前合宿の誘致に取り組みます。誘致に当たっては、国際大会の実績、トップス広島の存在、平和及び魅力的な観光地などのアピールポイントを関係機関と連携して発信するとともに、ボランティアの育成等、受入体制の充実について検討します。 <p>(イ) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機とした市民のスポーツに関する気運の醸成等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、市民のスポーツに関する気運を盛り上げる取組について検討します。 ○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の終了後においても、継続してスポーツに親しむ市民が増加する取組やジュニア選手が自ら競技力を高めようとする意欲を高めることにつながる取組などについて検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた取組として、委員の意見を総合的に勘案し、①事前合宿の誘致、③市民の気運の醸成、④ジュニア選手の意識高揚の3点を盛り込むこととする。各委員の具体的な意見は、今後の事業展開において参考とさせていただきます。なお、「スポーツと平和に関する国際会議の誘致」については、「イ 国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致等」の「スポーツと平和に関する調査・研究」の項目に盛り込む。
<p>イ 国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致等</p>	<p>【国際的・全国的なスポーツ大会の誘致】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 昨年、障害者セーリングの国際大会にパラリンピック選手が来たが観客が少なかった。開催者や市がPRし、盛り上げる必要がある。 ◎ 全国的にスポーツツーリズムといわれ、スポーツが観光振興の一翼を担う動きが盛んになっている。市は、宿泊場所及び屋内外スポーツ施設を多数備えていることから、広島県と連携し、スポーツコミッションの設立及びスタッフを配置し、積極的なコンテンツ拡充の取組を行う必要がある。 <p>【広島開催が定着している国際大会、全国大会に対する支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 広島に行ったら大事にしてくれるということが重要である。広島は選手を大事にしてくれる街ということが定着していくと大会は盛り上がっていく。選手を大事にするという環境が作れるようになればよい。そうしたことが計画の中で触れられてもよい。 ◎ 東京五輪後は、都内には新たな競技施設が新設されるため、地方都市での国際大会や主要大会の開催がますます難しい状況に追いやられるので、広島で大会を開催し続けるためには、恒常的な大会開催が求められる。 <p>【オリンピックのあり方を含めたスポーツと平和に関する調査・研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 計画策定時と状況が変化したため、「オリンピックを含めた」の文言を削除する。 	<p>(ア) 国際的・全国的なスポーツ大会の誘致 (※一つ目の○の直後に以下の項目を追記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 誘致した国際的・全国的なスポーツ大会について、より多くの市民に観戦してもらえるよう、関係団体等と連携し、積極的なPR活動を行います。 <p>(ウ) 広島開催が定着している国際大会、全国大会に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ヒロシマ国際ハンドボール大会や天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝競走大会等の国際大会、全国大会について、参加する選手や競技団体に対する受入体制の充実を図るとともに、ホームページや広報紙等において、積極的にPR活動を行い、より多くの市民に観戦してもらえるよう取り組みます。また、大会の開催効果がより発揮されるよう、補助金の交付、スポーツボランティアの派遣など必要な支援を行います。 <p>(オ) オリンピックのあり方を含めたスポーツと平和に関する調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピック本来の平和の祭典としてのあり方やスポーツを通じて世界恒久平和を訴える事業の実施について調査・研究します。 ○ スポーツと平和に関する国際会議について、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に合わせて開催し、スポーツを通じた平成のメッセージが発信できるよう、広島県を始め JOC(公益財団法人日本オリンピック委員会)等と連携して取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員の意見のとおり、大会の誘致だけが目的ではなく、誘致した後の市民の盛り上がり等も重要であることから、大会開催に係るPR活動について、追記する。 ● その他の委員の意見は、「(ア) 国際的・全国的なスポーツ大会の誘致」に関する具体的な事業展開に対する提案として承る。 ● 委員の意見のとおり、選手を大事にする環境づくりを行うことは重要であり、「受入体制の充実を図ること」、「より多くの市民に観戦してもらうこと」について、追記する。また、受入体制の充実を図ること等により、恒常的に広島で開催されるよう取り組んでいきたいと考えている。 ● 計画策定時、オリンピックの広島開催を目指しており、計画に盛り込まれていたが、状況が変化したため、「オリンピックを含めた」の文言を削除する。 ● 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機として、「スポーツと平和に関する国際会議の誘致」について積極的にやりたいと考えている。このことについて、委員からも賛同の意見があった。
<p>ウ トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ トップスの応援について、区役所やスポーツセンターの取組実績があるので、そういうことを計画に入れ込んで充実させていく。 	<p>(ア) * 地域スポーツ振興担当コーディネーターによるスポーツセンターを拠点としたトップス広島の応援気運の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ * 地域スポーツ振興担当コーディネーターが学区体育団体各区分連合会等地域団体と連携し、各区単位で行っている地域に拠点を置くチームへの重点的な市民応援体制を各区分で行うことにより、各区分での市民応援体制の確立にの促進に取り組みます。 <p>(カ) 民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応した支援検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応して必要な支援に取り組みます。サッカースタジアム検討協議会の提言を受け、広島に相応しいサッカースタジアムの整備について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 応援体制の実績が上がってきているため、「応援体制の確立」から「応援体制の促進」に変更する。